

2018年度のまとめと2019年度の事業と運動のすすめ方(案)

はじめに

格差、貧困の広がり、国民負担の増加によるくらしの不安が高まっています。憲法改正へ向けた準備がすすめられる中、2019年は平和・憲法・民主主義を持続させることができるか問われる年です。また、消費税10%への引き上げや社会保障の負担増など、事業と家計に大きな影響が及ぶ年でもあります。

少子化と高齢化がいつそう進む地域の中で、たじま医療生協は、暮らしと健康に価値ある存在として「居場所・たまり場づくり」や「なんなっと」等の活動を通じネットワークを広めます。そして誰もが安心して暮らし続けることができるよう医療・介護・地域と連携した地域包括ケアづくりをすすめます。

2018年度のまとめ

健康で安心して住み続けられるまちづくりをすすめます

～安定した事業運営でたじま医療生協の地域包括ケアをすすめます～

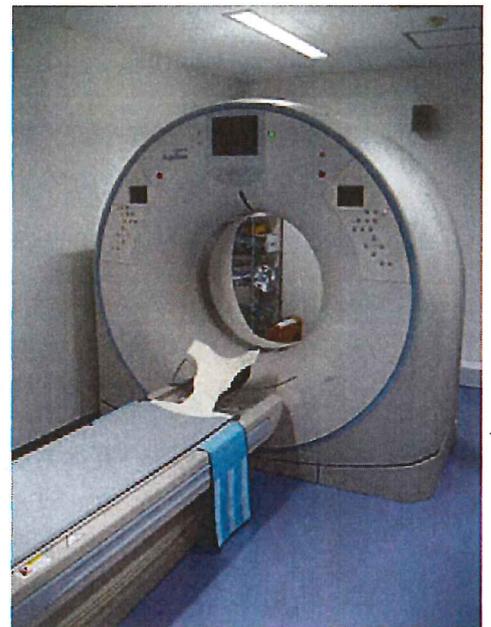
2018年度の重点方針

1. 新所長体制の診療所のもとで、引き続き医療と介護の連携をすすめ、地域に信頼される事業活動をすすめます
2. 健康でだれもが安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
3. くらしと平和を守る活動をすすめます
4. 地域包括ケアを担う医療生協の人づくり(人材確保・育成)をすすめます

1. 医療と介護の連携、地域に信頼される事業活動

(1) 新所長体制と研修医のもと以下の医療活動をすすめました。

- ① 従来の内科・小児科に加え、所長の専門を生かした脳神経内科・物忘れ外来や頭痛・整形外科的診断も行ない診療内容の充実に努めました。
- ② 新たに導入したCTの運用は、所内に限らず地域の診療所にも利用を広げました。また、公立八鹿病院とのMRIの共同利用を始め、両検査の予約待ちを解消し、必要なときに随時受けられる体制を整えました。
- ③ 診療内容が充実し広がったことにより、新しい利用者や遠方からの利用者が増えました。月曜夜間診の新設や在宅医療・保健予防活動も重視してとりくんだ結果、事業収益を大



新たに導入した16列32スライスCT

きく伸ばすことができました。

- ④ 家庭医専攻の研修医が1年を通じてろっぽう診療所で研修を行い、外来・在宅・保健予防活動を担いました。
 - ⑤ 豊岡病院をはじめとする地域の医療機関との連携をすすめ、地域に貢献し信頼される事業活動を展開しました。
- (2) 医療と介護の連携のため情報共有に努めました。また、介護事業所は慢性的な人手不足の中で、依頼に応え、寄り添う活動に努めました。
- (3) 今後の所長医師確保の課題では、『医師対策委員会』を中心に但馬出身の医師に働きかけをし、また民間紹介事業者などを通じて、課題解決のために継続してとりくんでいます。
- (4) 新敷地の有効活用については、一時期職員駐車場として活用しました。
- (5) 新施設建設に向け、職員や組合員に向けたアンケート（新施設意向調査）を実施しました。

2. 健康でだれもが安心して住み続けられるまちづくり

- (1) 暮らしの助け合いの会「なんなっと」は、支援者60人、利用者240人と大きく増えています。地域住民からの増え続ける要望に応えられるよう、事務局体制を強化しました。
- ① 要望に応え、寄り添った支援ができるよう、支援者のスキルアップ講習会を定期的に行いました。
 - ② 行政や地域包括センター・社協・コープデイズ豊岡のほか、各種団体と地域で協力協同と交流をすすめ、地域の高齢者や障害のある人に必要な信頼される組織として活動しました。
- (2) 地域づくり委員会では、組合員活動委員会と協力して、つながりマップの学習会にとりくみ、支部の実態把握のためアンケートを実施しました。
- (3) 組合活動委員会では、認知症についての理解を深める学習会を開催し、組合員や地域から100名を超える参加者がありました。
- (4) たじま医療生協独自の「健康チャレンジ」は140名が参加しました。また、今年からは兵庫県生協連が取り組む「健康チャレンジ」に53名（子どもを含む）が参加し、医療生協の健康づくりを地域に発信しました。
- (5) ろっぽう通信の内容の充実やホームページの更新をはかりました。
- ① 医療生協の各支部や班、組合員の声を反映した虹の広場や、行事の紹介、クイズなど組合員と医療生協を結ぶ懸け橋となるよう紙面づくりをすすめました。
 - ② 最新の診療所および介護事業所の案内を発信し、魅力あるホームページづくりに努めました。
- (6) 送迎ボランティア・抱っこボランティアの活動は、患者や乳幼児の保護者にとって不可欠な活動となっています。現在、外来患者の増加により送迎希望者が増えています。送迎ボランティアの高齢化によりメンバーが不足しています。ボランティア人員を充実させることが課題です。
- (7) 日高支部で始めた「夏休み宿題がんばろう会」はNPO法人「コミュニティ日高」の行事として発展しました。グラウンド・ゴルフは各支部などで継続してとりくみました。また、春の花見会、秋のハイキングや、ラージボール（卓球）、手芸、バーベキュー、手づくり小物教室、そば打ち会などの支部・班活動を活発にすすめました。

3. くらしと平和を守る活動

- (1) 地域の運動と共同して平和行進や、平和のつどいへの参加、憲法9条を守る「3000万人署名」と「核兵器廃絶ヒバクシャ国際署名」など、ろっぽう通信を通じて組合員にも広く呼びかけました。活動の中で、豊岡市長にも署名に応じていただき、但馬管内全域の首長の署名を得ることができました。
- (2) 「地域医療をまもる但馬の会」の事務局を担い、公立病院の統廃合やベッド削減に反対し但馬の医療を守る運動にとりくみました。
- (3) 「被爆者の会」の事務局を担い、被爆者健診受診や懇親会の開催を支援しました。
- (4) 兵庫県社会保障推進協議会が取り組む自治体キャラバンを但馬全市町村で実施しました。

4. 地域包括ケアを担う医療生協の人づくり

- (1) 診療所、介護事業所、「なんなっと」のとりくみでくらしの中で困ったことがあれば、組合員の枠を超えて地域の医療・介護・生活支援ができるようとりくみました。
- (2) 新たに診療放射線技師など医療のスタッフを充実し、「新しい治療法や医薬品について」の職員研修会を数多く開催し、質の高いサービスを提供できる事業所づくりをめざしてきました。
- (3) 医療生協・民医連らしい職員の育成にむけ、民医連の新入職員研修、各事業所の所長会議へ積極的に参加しました。職場においては事業所ごとの職場会議やスキルアップ研修会を開催してきました。また、新任理事研修や、職員の認知症学習会を開催しました。また社保平和委員会内での通信教育をとりました。しかし、全職員対象の制度教育が遅れています。
- (4) 職場の環境改善のために実施した職員アンケートでは、日頃の業務内容や悩み、課題などについて率直な意見があり、提起された意見について改善に向けとりくみをすすめています。
- (5) 医師確保はもちろん、介護事業所における医療・介護スタッフの確保は緊急の課題であり、理事会のもとに医師対策委員会・介護職員確保対策委員会を設置し、確保のための活動を強めています。

2019年度の運動方針

くらしの困りごとを解決し健康で安心して住みつつけられるまちづくりをすすめよう

2019年度の重点方針

1. 医療・介護・地域と連携した事業活動をすすめます
2. 誰もが健康で安心して暮らせる地域づくりをめざします
3. くらしと平和を守る活動をすすめます
4. 地域包括ケアを担う人づくりをすすめます

1. 医療・介護・地域と連携した事業活動をすすめます

- (1) 次期診療所体制の早期確立と医療と介護の連携をすすめます。

- ① 内科・脳神経内科・物忘れ外来などの診療活動を継続してすすめます。引き続き在宅医療や保健予防活動にもとりくみます。
 - ② 兵庫民医連や医療生協のほか民間紹介事業者やその他あらゆるつながりを生かし、次期所長を確保し、安定した事業運営ができるように努めます。
- (2) 医療・介護・地域と連携した事業活動をすすめます。
- ① 法人内事業所の連携を強めるため、定期的な連携会議（カンファレンス）を開催するなど、情報共有し、つながりのあるサービスを提供できるよう努めます。
 - ② 行政、社協、地域の医療機関、介護事業所などと連携し、地域に求められる事業活動を展開します。
 - ③ 豊岡市などの「総合事業・支え合いサービス事業」は、経営的側面や事業実施体制の可能性をよく見極めてその実施を検討します。
 - ④ 新施設建設については組合員および職員の「施設建設意向調査」の意見をふまえ、建設推進委員会のもと計画の具体化をすすめます。

2. 誰もが安心して暮らせる地域づくりをめざします

- (1) 気軽に立ち寄れる「居場所・たまり場づくり」をひろげ、地域とのネットワークづくりをすすめます。
- ① 診療所プレハブやサテライト、地域の空き家、地区公民館などを活用し、困りごとが気軽に相談でき誰でも立ち寄れる「居場所・たまり場づくり」をひろげます。「居場所・たまり場」援助金の制度化をはかります。
 - ② 「たまり場」から出てきた困りごとを、支部や事業所、「なんなっと」の活動を通じて解決できるよう努めます。困りごとの解決の手段としての「つながりマップ」をそれぞれの地域にあった形で作成し活用していきます。
 - ③ 医療生協の活動としてグラウンド・ゴルフ、ラージボール、手芸、ハイキング、バーベキューなどをすすめます。支部や班活動を援助し、これらの活動を通じて支部活動の担い手や後継者づくりをすすめます。また、予防接種や抱っこボランティアを通して組合員になった若い世代とのつながりを深めます。興味のあるとりくみや子どもを対象にしたイベントなど、若い世代の要求に応えられるとりくみをすすめて、活動参加をめざします。
 - ④ 新施設建設を見据えて安定した活動をするため、創立25周年にあたる2020年に5,000人組合員、8,000万円出資金到達へ向け、組合員および出資金増やしをすすめます。
- (2) 「なんなっと」の活動は発足から3年を経過し、地域での認知も広がり多くの要望が寄せられています。その要望に対応できるよう支援者の確保や、研修会の開催を通じてさらに充実をめざします。
- (3) 送迎ボランティアや抱っこボランティアの活動は、ろっぼう診療所の患者や乳幼児の保護者にとってなくてはならない活動となっており継続してとりくみをすすめます。



組合員集会での千葉所長の認知症講演会

- ① 送迎ボランティアは、送迎希望者が増加していること、高齢化によりメンバーが不足していることをふまえて多くの人に参加を呼びかけます。
 - ② 抱っこボランティアへの参加を呼びかけ、メンバーの充実をはかると共に、進んで声をかけるなど若い世代とのつながりを大切にしていきます。
- (4) 地域丸ごと健康づくりをすすめます。
- ① 健康づくりを通じて医療生協の役割を地域に発信した活動をすすめます。健康診断や2つの「健康チャレンジ」を組合員や地域住民にも参加を呼びかけ、地域の健康づくりをすすめます。
 - ② 地域や支部において認知症予防講座や認知症予防体操の運動をひろげます。

3. 暮らしと平和を守る活動をすすめます

- (1) 地域の運動と協同して憲法学習会や、憲法9条を守る「3000万人署名」・「核兵器廃絶ヒバクシャ国際署名」にとりくみ、平和を守る運動、社会保障の充実を求める活動、脱原発、災害支援、消費税10%の増税の中止を求める活動をすすめます。
- (2) 「地域医療をまもる但馬の会」の事務局を担い但馬の医療を守る運動にとりくみます。
- (3) 高齢化が進む被爆者の健診受診や懇親会の開催などの支援を継続して行います。

4. 地域包括ケアを担う人づくりをすすめます

- (1) 地域包括ケアを担う人材づくりをすすめます。
 - ① 事業継続を可能とするためにも特に医師・介護職員の確保は急務です。医師対策委員会・介護職員確保対策委員会の活動を強化し、組合員の協力を得て確保に努めます。
 - ② 地域包括ケアを担い、質の向上と事業所内外の連携をつよめ『選ばれる事業所』をめざします。「地域包括ケア」を掲げる組織として、地域で困りごとがあれば支部や「なんなっと」と協力して、医療・介護・生活支援ができる組織をめざします。
 - ③ 職員は地域支部行事へ積極的に参加し、相談活動や事業所の紹介活動をすすめる職員成長と組合員との交流をはかります。組合員と職員がともに学び活動し交流できる医療生協をめざし、健康まつりの他にも共同の学習会や交流会を開催します。
- (2) 医療生協や民医連の職員研修に積極的に参加します。
 - ① 医療生協・民医連職員の一員として、スキルアップをめざします。制度教育担当責任者を配置し、全職員を対象にした制度教育および職員研修をすすめます。医療生協や民医連の研修会は、業務を調整し参加をはかります。
 - ② 兵庫民医連や医療生協の所長・担当者会議は、職務として参加します。
- (3) 処遇改善と働きやすい職場づくりをめざします。
 - ① 働く職場の環境アンケートに対する改善をすすめるため対話をすすめます。安心して働き続けられる職場づくり、お互い協力し尊重しあえる職場風土づくりに努めます。
 - ② 法人本部機能の強化や管理体制の整備を通じ、各事業所運営が円滑にすすめられるよう努めます。